



井出野浩貴氏プロフィール

1965年、埼玉県生まれ。1988年、早稲田大学第一文学部フランス文学専修卒業。都内の高等学校で教諭として勤務する傍ら翻訳家として活動する。2007年、俳誌「知音」入会。2013年、第2回青炎賞（「知音」内の新人賞）受賞。2015年、川口市芸術奨励賞受賞。

『驢馬つれて』（自選15句）

井出野浩貴

グロープのオイルの匂ひ五月来る
冷奴ゆづれざることひとつ失せ
泳ぎ来し子の水滴に目覚めたる
ナイターのまだ残る灯をかへりみる
ひぐらしの声旅信にも染み入らむ
いつかてふ日は訪れず翳雲
黒板を清め夜学の灯を消しぬ
むかしから大樹なりけり銀杏散る
あの部屋にいまは誰住む枇杷の花
聖樹の灯一番星に先んじて
マフラーの緋を見送りてより逢はず
三振の子に鯛焼を食はせけり
卒業生見送り千の椅子たたむ
うとうととただれざくらの楯中に
鉄橋のしづまり雲雀野にひとり